



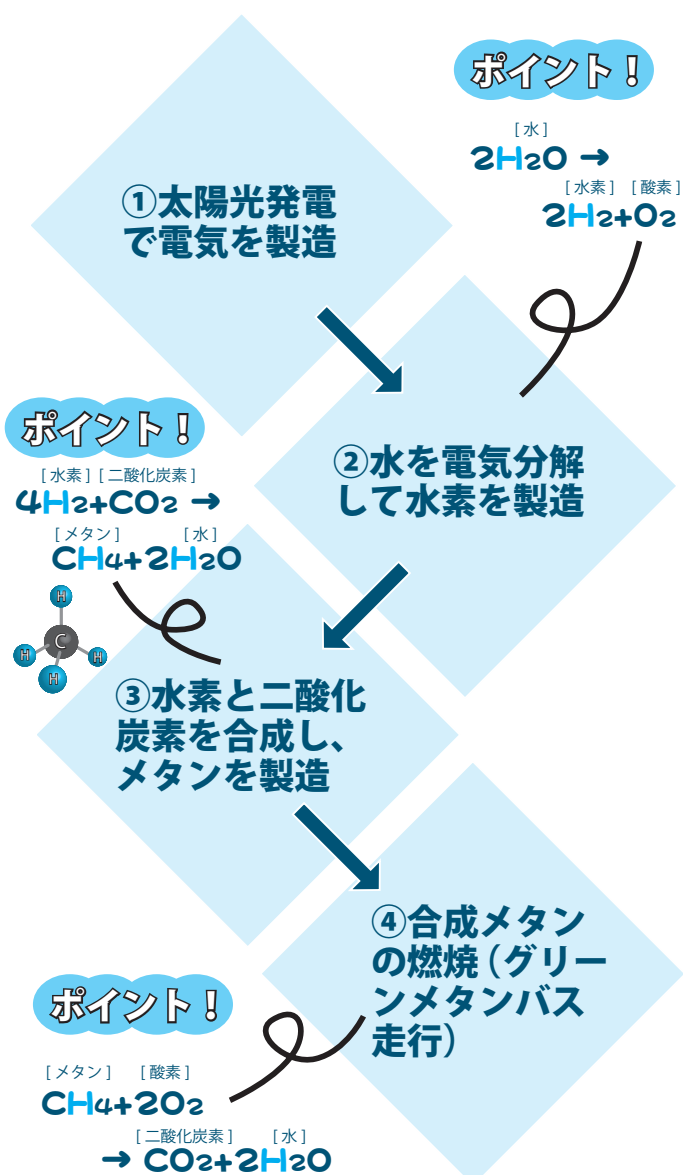
循環型地域社会を目指す グリーンメタンバス ～合成メタン燃料～

市は 2018 年より、株式会社 IHI と共同で、光陽地区において「そうま IHI グリーンエネルギーセンター (SIGC)」を運営しています。

SIGC は「水素を活用した CO₂ (二酸化炭素) フリーの循環型地域社会づくり」を目指す実践・研究開発拠点で、カーボンニュートラルの実現に向け、再生可能エネルギーを活用した水素の製造・利用技術の開発を推進しています。

このたび、太陽光発電による電気を使い水を電気分解して製造した水素と二酸化炭素を合成し、環境に優しい合成メタンを製造する施設を整備しました。

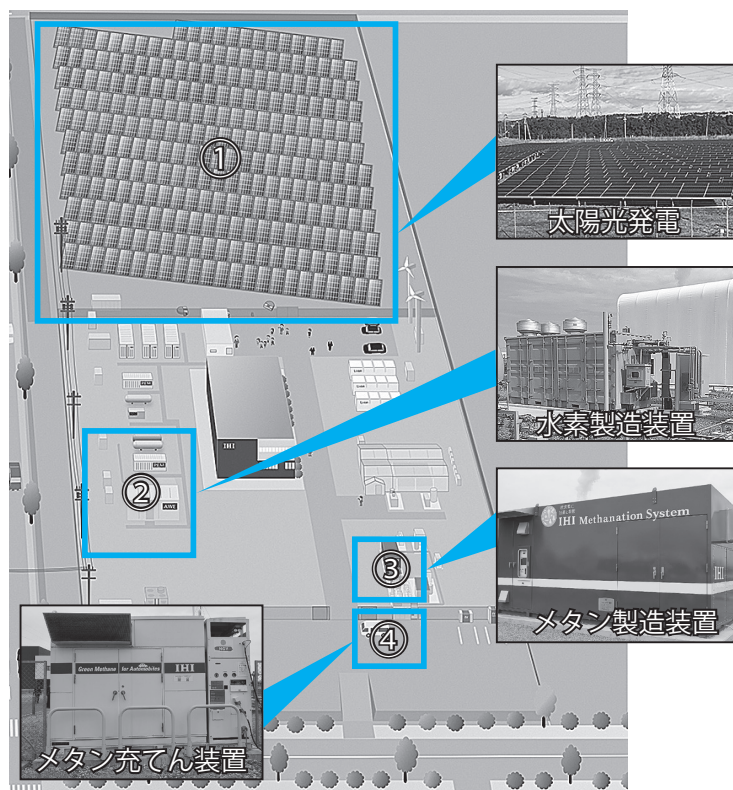
● SIGC での合成メタンの製造・活用



合成メタンとは？

SIGC で製造する合成メタンは、水を電気分解してできた水素を活用して製造されたものです。製造時に二酸化炭素を活用することから、燃焼時に排出される二酸化炭素が差し引きゼロ (カーボンニュートラル) になり、環境に優しいエネルギーです。充電装置やタンクなどは既存の天然ガスのものを利用することができます。

【そうま IHI グリーンエネルギーセンター (SIGC) 平面図】



●おでかけミニバスでの合成メタンの活用

市は、移動手段を持たない高齢者の買い物支援と中心市街地活性化を目的に、おでかけミニバスを運行しています。(市内 20 ルート、週 2 回運行)

おでかけミニバスの車両 6 台のうち 1 台を、合成メタンとガソリンの 2 種類の燃料を切り替えて走行できる構造に改造し、グリーンメタンバスとして 2 月 22 日より運行が始まりました。(市内 5 ルートを運行)

合成メタンの車両燃料としての活用は、国内初の取り組みです。

●グリーンメタンバスの紹介



合成メタン
充てん口

排気ガスとして

【二酸化炭素】 【水】
 $\text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$

が発生します。

1 回の合成メタン充てんで、約 150 キロメートルの走行が可能です。

二酸化炭素が、合成メタン製造時の使用量と排気ガスとしての排出量とで、差し引きゼロとなり、カーボンニュートラルが実現できます。

●グリーンメタンバスお披露目式

合成メタンを燃料とするグリーンメタンバスのお披露目式は 1 月 23 日、SIGC で開催され、関係者約 30 人が参加しました。

当日は、新たなデザインを施した車両と合成メタンの製造設備が披露され、立谷市長、中島精一株式会社 IHI ソリューション統括本部部長補佐、平澤貞昭相馬市タクシー利用促進協議会会長の 3 人が同バスに合成メタンを充てんしました。



市公式 YouTube チャンネルで、グリーンメタンバスお披露目式の動画を公開しています。右記の QR コードからアクセスし、ご覧ください。



グリーンメタンバスお披露目式



市は、車両の走行から得られる二酸化炭素排出量削減データを収集するなど、今後も CO₂ フリーの循環型社会の構築に向けた取り組みを進めていきます。

●問い合わせ先

▽そうま IHI グリーンエネルギーセンターに関すること 商工観光課 (☎ 37-2134)

▽おでかけミニバスに関すること 企画政策課 (☎ 37-2132)